

道徳学習指導案

指導者 T1 加藤 幸恵

T2 丸川 祐子

- 1 日時 平成25年6月21日(金) 第5校時
- 2 学年 第5学年 男子9名 女子10名 計19名
- 3 主題名 自分に誠実に 1-(4) 誠実・明朗 , 関連項目 2-(2)
- 4 資料名 手品師 (出典 きみがいちばんひかるとき 光村図書)
- 5 主題設定の理由

(児童の実態について)

本学級の児童は、明るく活動的である。しかし、「掃除を真面目にする」「人の嫌がることをしない」など、わかっているにもかかわらず、実際の生活では、これらが守られなかったり、注意されると、人のせいにして、その場しのぎの言い訳で場を収めようとすることもある。そのような言動が、いやな自分につながっていくことにはあまり意識がない。

5月の道徳アンケートでは、「人の気持ちが分かる人間になりたい」「人には親切にしたい」「人の役に立つ人間になりたい」「努力する人間になりたい」などの項目で全員が肯定的評価をしている。このことから、自分はこういう人間でありたい、こういう生き方をしたい、という思いを児童が持っていることがわかる。しかし、「自分にはよいところがあると思う」の項目においては、肯定的評価は50%と低いことから、理想の自分と現在の自分には、ギャップを感じていると思われる。

(主題について)

学習指導要領解説道徳編1-(4)「誠実に、明るく楽しく生活する。」の項目である。

本資料は、腕はよいが売れない手品師が、偶然に出会った一人の寂しい境遇にある男の子に手品を見せ、喜ばせる。翌日にも会うことを約束するが、その夜、友人から大劇場出演の誘いを受け、「大劇場出演」という自分の夢の実現と「男の子との約束」の間で苦悩する。そして迷った末に友人の誘いを断るといふ話である。

心優しい手品師と寂しい男の子の出会いを通して、「誠実に生きる」とはどういうことか考えさせたい。そしてだれに対しても誠実に接することが大切であり、その結果、得られる心の安定や満足感によって明るく楽しく生活ができるということを感じ取らせたい。また、自分はこういう人間でありたい、こういう生き方をしたい、という気持ちを強くし、自尊心を高めていきたい。

(道徳的実践力を高めるための工夫)

- 資料提示-TTで資料提示を行い、状況を把握しやすくする。
- 話し合いワークシートに記入することで、男の子のところへ行くことを決断する手品師の思いに共感させる。
- 終末-実践意欲につながる説話を行う。
- 事後-道徳コーナーに掲示し、実践意欲を高める。

6 他教科・領域等との関連

	教科・領域等	道徳の時間	生徒指導の三機能との関連
5月	<p>江田島市里海学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでメンバーの様子を気にかけるながら、協力してポイントを回って課題に挑戦する。 	<p>自分に誠実に</p> <p>1-(4) 誠実・明朗 関連項目 2-(2) 思いやり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子との約束を守った手品師の思いに共感することを通して、誠実に生きる大切さに気づかせる。 	<p>共感的人間関係を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの意見を尊重しながら自分の意見を述べる
6月	<p>学級活動</p> <p>「野外活動の計画を立てよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動での目標を立て、役割分担やプログラムについて協力して計画を立てる。 	<p>男女の協力</p> <p>2-(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女互いに理解し合って友情を育て、協力しようとする心情を育てる。 	<p>自己存在感を与える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の喜びが、自分の喜びとなることを感じとる。
7月		<p style="text-align: center;">↓</p>	
<p>能美中学校区 めざす子ども像</p> <p>自分が好き、友達が好き、地域が好きと言える子ども</p>			

7 本時のねらい

男の子との約束を守った手品師の思いに共感することを通して、誠実に生きることの大切さに気づかせる。

8 指導過程

	学習活動と主な発問	予想される児童の意識の流れ	T1	T2	指導上の留意点 (○) や評価 (※)
導入	1 映像を視聴し、手品師について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・手品だ。どうやったのかな。 ・うまいな。 ・不思議だ。 	発問	映像	○手品を披露する映像を見て、本時に対する興味を持たせる。
展開前段	2 資料前半を読んで話し合う。 ○手品師はどんな気持ちで練習しているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・いつかは手品師として有名になって見せるぞ。 ・みんなを楽しませるようになるまであきらめないぞ。 	板書 発問	範読 BGM	○パソコンを活用し、絵と資料の内容を示す。同時に黒板掲示をし、内容理解を助ける。 ○夢を叶えるために、日々の努力をおしまず練習に励んでいることをおさえる。
	○手品師はどんな思いで男の子と約束したのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の手品で明るさを取り戻してくれてうれしい。 ・明日も手品を見せて楽しませてやろう。 	発問	机間 支援	○自分の行動が少年を明るくさせたという手品師の満足感に気付かせる。
	○手品師はどんなことで迷っているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・大劇場へ行くべきか、男の子のところへいくべきかで迷っている。 【大劇場へ行くときの思い】 ・ずっと夢だったから。 ・これまで一生けんめいに練習を続けてきたから。 ・大勢の人を喜ばせたい。 【男の子の所へ行くときの思い】 ・先に約束していたのだから。 ・行かないとかわいそうだ。 ・次のチャンスがきっとくる。 	発問		○手品師の迷っている思いを追求する。(それぞれの場合の手品師の思いを聞く。)
	3 資料後半を読んで話し合う。 ◎男の子のところへ行くことを決断したのはなぜでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・あんなに楽しみにしていた男の子をほっておけない。 ・行かなければずっと待っているかもしれない。 ・約束は約束。男の子と最初に約束をしたのだから。 	発問	範読	○ワークシートに記入させ、手品師の思いに共感させる。
	○男の子の前で手品をしている手品師はどんなことを考えているでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が決めたことは間違っていない。これでいい。 ・こんなに喜んでくれている。喜んでもらえてよかった。 ・やっぱり断ってよかった。 	発問	机間 支援	○男の子の笑顔を見て自分の決断にすがすがしさを感じている手品師に共感させる。 ○相手の喜びが、自分の喜びとなることを感じとらせる。 (自己存在感を与える)
展開後段	4 手品師から学んだことを書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が信じた生き方を選ぶことが大切。 ・約束を守ることの大切さを考えることができた。 	発問 板書	机間 支援	○ワークシートに記入し、自分の生き方について考えさせる。 ※誠実に生きることの大切さに気付くことができたか。
終末	5 教師の話聞く。		説話	BGM	○心のノート「まじめであることはわたしのほこり」を紹介する。

9 板書計画

手品師

一人練習している場面絵

腕はいいが、あまり売れない
その日のパンを買うのもやっと
大劇場のステージに立つのが夢

劇場へ行くときの思い

・ずっと夢だったから。
・これまで頑張って練習してきた。

迷っている場面絵

・先に約束していた。
・行かないとかわいそうだ。

男の子の所へ行くときの思い

お父さんはいない。
お母さんは働きに出て帰ってこない。

男の子を喜ばせている場面

「きつとだね。きつときてくれるね」
「きつとね。きつと来るよ。」

男の子のところにへ行くことを決断したのは？

・楽しみにしていた男の子をほっておけない。

・約束は約束。

自分が決めたことは間違っていない。

手品をしている場面絵